

(二〇一八年度)

4 国 語 問 題 (六〇分)

(この問題冊子は19ページ、三問である。)

受験についての注意

- 一、試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、試験開始前に、試験監督者から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 三、試験監督者から試験開始の指示があつたら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
- 四、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能やスマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
- 五、解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。
- 六、マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。また、マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
- 七、訂正する場合は、消しゴムでいねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
- 八、解答用紙を折り曲げたり、破つたりしてはならない。
- 九、試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
- 十、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十一、問題冊子は必ず持ち帰ること。

一
次の文章を読んで、後の問に答えよ。

人間といえども他の動物や植物と同じく、地球という物体の表面でその自然現象の網の目に依存しつつ、他の生物と共存しながら生きている自然の一部分であるという考えは、現代人の人生観として定着しつつある。¹しかし反面、このような広漠とした自然平等の眺望の視野のなかで、人間と他の生物や自然との差異と亀裂の風景の実感もまた、ますます強い印象で私たち²に迫ってきているのも事実である。

今から五十万年前にホモ・エレクトゥスが火を使い始め、槍や棒のような武器を手にして狩猟生活をしていたとき、あるいは紀元前一千年頃に地上に住んでいた私たちの祖先のホモ・サピエンスが鉄製の道具を用い、宗教的儀式を行っていたときでも、人間と他の動物は大きく違っていたのだ、²ということが出来る。ただしその違いは、モグラは空中を飛ぶことは出来ないが、鳥類は飛ぶことができるという違いと、同じ種類の違いと見ることもできただろう。しかし、その後の人類の歴史のなかで、人間が多様で複雑な道具や機械をつくって農耕を始め、車や船をつくり、貨幣をつくって商業を始め、近代になって更にそれらを発展させて工業化社会をつくり、現代に至ってコンピューターを發明し、それを使って月の表面に到着したり、生物の遺伝子を操作して新しい生物の種を人為的につくり出したりするようになると、私たちは人間と他の動物の生活の差の増大していく開きを眼前にして、人間と他の生物や自然との共通性よりも、その余りにも大きな差異に眼を奪われてしまう。

たしかに生物の形態や器官の働きも不変ではなくて、時間の経過とともに変わっていく。しかし、この変化は、それぞれの生物の種が共有している遺伝子³給源の遺伝的浮動、隔離、突然変異そして自然選択などが原因となって少しずつ変わっていくものであり、その変化に要する時間は通常、数万年、数十万年、数百万年という時間単位で示されている。これにたいして人間の³ばあい、ヒト科の出現から現在までの約六百万年の間、形態学的にそれほどの変化はないし、特にホモ・サピエンスという種の出現以来の約三万年の年月を通じて、形態的にはほとんど変わっていない。

これに反して人間の文化、即ち生活様式は、過去三千年くらいから加速度的に変化して、特にこの三、四百年以前からヨ

ロツパを中心とする地域では科学技術の開発とともに急速に変化してきた。特に第二次大戦以降の半世紀に至らんとする期間では、今までにない科学技術の急速な開発が人間の生活を、しばしば混乱にまき込むほど大きく変えようとしている。このような人間の生き方と人間以外の動物の生き方との違いを説明するのに、人間は理性を、科学を、あるいは文化をもっているからだと説明することは、人間も他の動物と同じ動物の一種であり、他の生物と同じように自然のなかに生きているのだという事実によく合うように人間を説明する仕方よりも、他の生物やその自然とは異なるのだという説明を与えるのに都合よくきている説明の仕方である。何故なら、他の動物は理性も科学も文化ももっていない、ということをして、この説明は暗に前提としているからである。そこで私は、人間が理性をもつとか、文化をもち科学技術をもつなどというふうに規定するよりも、もつと根源的に、人間が他の動物と同じでありながらその特色とする違いを、「人間は言葉をもつ動物である」という規定の仕方から説明してみようと思う。

人間を定義して⁵ロゴスをもつ動物と表現したのはおそらく古代ギリシャの人々だったらしく、アリストテレスの著作などにしばしば引用されている。ギリシャ語でロゴスと言うとき、それは「言葉」を意味すると同時に、「考え」たり「判断」したり、「推理」したりする「理性」という意味ももっている。西欧の思想の伝統のなかで、この「ロゴスをもつ動物」という表現のロゴスは、いつのまにか理性という言葉の意味の方にひきつけられて、「理性をもつ動物」または理性的動物(rational animal)というふうにならわれてきた。しかし、「理性」とか「理性的」という言葉の意味するものに具体的な構造を与えることは不可能であり、従ってその意味は曖昧になつてくる。人間でありながら理性的でないとされるようなばあいがあるし、宗教はもととも理性的な心の働きとは別な心の働きの上に成り立つとか、詩やロマンティックな文学は理性的でない、などと言われる。しかし「ロゴスをもつ動物」ということを「言葉を語る動物」と理解すれば、宗教はもとより詩やロマンティックな文学はすべて言葉で語られ表現されているのだから、「ロゴスをもつ」ということと矛盾はしない。しかも「言葉で表現する」とか「言葉で語る」ということの意味は現象としても明白であり、言葉で語っているかいないかは、誰にでも一義的に区別できる。

特に現在のように言語に関する科学的研究が進み、その統語論的構造や意味論的構造がより具体的に解明されるようになれ

ば、「言葉をもつ」ということがどのような構造のメカニズムで行なわれ、それが人間の知識に、知覚による知識にはないどのような特徴を与えたか、そしてそのことが人間の生活の仕方によつてどのような影響もあたえたか、がより明確になってきた。ロゴスを理性という曖昧な表現にほんやくして、理性的ということをも反宗教的、非文学的に、そしてそのうちに論理的、数学的、科学的という言葉の意味に接近させ、更にはそのような生活様式を生み出した近代西歐文化とまで結びつけ、近代西歐文化のスタイルに反する他の社会の生活スタイルを「非合理的」とか「前論理的」とか、あるいは最近のように表現を変えて⁶「X」などと呼ぶことになつても、なお人間の間文化的な差別をつけるときの根拠に使われてきたことは否定すべくもない。⁷これこそ「合理性」という語の「非合理的使用」という他はない。

ところで、人間が実際に使っている言語の外見上の構造は、それぞれの国語によつて違つてゐるのは事実である。しかし、それにも拘わらず、それらに共通な構造とメカニズムを探索してみると、色々なレベルで単位を設立し、この単位を組合せて色々な言語表現をつくり、それによつてより限定された言語情報を構成し伝達する、という点で共通なものをもっている。音素または文字を組合せて語を、色々な語を組合せて文を、そして多くの文を組合せてつないでより長い文、というより物語りや理論（一緒にしてストーリーと呼ぶことにする）をつくる。そしてこれらの組合せをつくるばあい、使うことのできる意味のある組合せと、使うことのない無意味な組合せとを区別し、それぞれの発話状況に適した有意味な組合せを選んで、発話の行為をおこなうという、言語記号の構成（組合せを原則とした）とその適用のための知的活動がこれに伴わねばならないが、この言語を使用することのために必要な知的操作は、有意味な記号排列を使用するために必要な演繹的・推論的な仕事や、状況にふさわしいかどうかを定める判断や、その記号で伝達される情報の真偽を判定する認識的な働きをふくんでいるが故に、まさに「理性的」とよばれるにふさわしい働きであろう。⁹この意味で「言葉を使う」ということと「理性的である」ということが一つになるのであつて、言葉を宗教的信仰の内容を示すために使うか、詩をつくるために使うか、科学的記述のために使うか、ということでは区別するのは次元が違ふのである。

（沢田允茂「言語と人間」より）

〔注〕 遺伝子給源^{プール}：繁殖可能な個体群がもつ遺伝子の総体。 遺伝的浮動：遺伝子の組合せが偶然に変動すること。

統語論的構造：文法的構造と同義。 音素：ある言語において同一と見なされる音の最小単位。

問一 傍線部1で著者が問題にしている状況を簡潔に言い換えるのとどのようになるか。次の中からもっとも適切なものを選び、選べ。

a 人間は一面では地球の上での自然界の一部を成す生物の一つであるが、自然平等の結果として、他の生物との差も増大してきている。

b 人間は他の動物や植物と同じく、一面では地球という物体の表面で他の生物と共存しているが、反面、自然平等における亀裂の風景の実感も迫ってきている。

c 人間は現代人の人生観としては他の生物と同様に自然界の一部であるが、反面、自然平等の眺望の視野のなかでは他の生物との差異の実感もまたもっている。

d 人間は一面では他の多くの生物と共存しながら生きている自然界における生物の一種であるが、反面、他の生物とのあいだに差異や亀裂も存在している。

問二 傍線部2で述べられていることの趣旨は何か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 昔から人間は他の動物と大きく違っていたが、それは、モグラのような動物は空中を飛ぶことはできず、鉄製の道具も用いないのと同様で、鳥類が飛ぶことができるようには違っていない。

b 昔から人間は槍や棒のような武器を手にして狩猟生活をするなど、他の動物と大きく違っていたが、その違いはモグラと鳥類の違いほどではなく、人間だけが特別であるということにはならない。

c 昔から人間は他の動物と大きく違っていたが、その違いは、単に個々の生物種はそれ独自の特性をもっているということの反映に過ぎず、人間だけが特別であるということにはならない。

d 昔から人間は道具を用いるなどして他の動物と大きく違っていたが、その違いは特別のものではなく、宗教的儀式を行なっていたときでも、鳥類のように空中を飛ぶことはできなかった。

問三 傍線部3で言及されている類いの変化を一般的に表す用語は何か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 成長

b 進化

c 発達

d 繁殖

問四 傍線部4について、著者がこのような説明に難点があると主張する主な理由は何か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 人間が理性等をもつ故に他の生物と異なると説明することは、理性の概念が曖昧なうえに、理性等を他の生物はもっていないということを暗に前提としている点で十分な説明になっていないから。
- b 人間が理性等をもつ故に他の生物と異なると説明することは、第二次大戦以降の半世紀において今までにない科学技術の急速な開発が人間の生活を大きく変えてきたことを説明できないから。
- c 他の生物と共存しながら自然現象の網の目に依存して生きている人間は自然の一部分であり、理性等を強調することは人間と他の生物との差異を現代人の人生観として強く印象づけてしまうから。
- d 人間が理性等をもつ故に他の生物と異なると説明することは、私たちの祖先のホモ・サピエンスが鉄製の道具を用い、宗教的儀式を行なっていたという事実を正当に説明できないから。

問五 傍線部5の「ロゴスをもつ動物」という概念は、著者によればどのような歴史的変遷を経てきたか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 元のギリシャ語「ロゴス」がもっていた「言葉」という意味と推理、判断したりする「理性」という二つの意味のうち、「理性」の意味の方にひきつけられて、人間を「理性的動物」と規定するに至った。

b 「ロゴス」がもつ「言葉」という意味が、宗教はもともと理性的な心の働きとは別な心の働きの上に成り立つとか、詩や文学は理性的ではないとみなす伝統的思想のなかで、「理性」という意味に変質していった。

c アリストテレスが用いていた「ロゴス」というギリシャ語が、西欧の思想の伝統のなかで「言葉を語る動物」という意味にひきつけられていき、その結果、人間を「理性的動物」と規定する宗教が生まれた。

d 古代ギリシャの「ロゴス」という表現は本来「理性」を意味し、その結果、詩やロマンティックな文学を理性的ではないものとして宗教とともに「理性的動物」としての人間と矛盾するものと捉えるようになった。

問六 ⁶ X に入る語としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a ファシズム

b 民主主義国家

c 発展途上国

d 社会主義国

問七 傍線部7で著者が言う「合理性」という語の「非合理的使用」とは、具体的に言うところのどのようなことか。次の中からもっとも適切なもの一つ選べ。

a 理性的ということ(「合理性」)をロゴスという曖昧な概念に結びつけ、その統語論的構造などを示すことによって宗教的、文学的スタイルを「非合理的」として否定するために用いること。

b 理性的ということ(「合理性」)を知覚による知識にはない特徴として捉え、知覚による知識を宗教的、文学的な「非合理的」な生活スタイルとして否定するために用いること。

c 理性的ということ(「合理性」)を言語の意味論的構造に基づいて具体的に解明し、それによって近代西欧文化と異なる社会のスタイルを「非合理的」として扱うために用いること。

d 理性的ということ(「合理性」)を近代西欧文化に結びつけることによって、近代西欧文化のスタイルに反する他の社会のスタイルを「非合理的」として否定するために用いること。

問八 傍線部8で著者が言う、人間の言語に「共通な構造とメカニズム」とは、ここでは具体的に何を指しているのか。次の中からもっとも適切なもの一つ選べ。

a ある言語表現が状況にふさわしいかどうかを定める判断を演繹的・推論的に行なうメカニズム。

b 単位を設立し、その単位を組合せることによって次々と言語表現をつくり出していくメカニズム。

c 言語を科学的記述のためにも宗教的信仰の内容を示すために非理性的にも使えるメカニズム。

d 近代西欧文化に反する他の社会のスタイルも前論理的に用いて言語によって表現できるメカニズム。

問九 傍線部9で著者が主張している内容を簡単に述べ直すとどうなるか。次の中からもつとも適切なものを一つ選べ。

a 言語記号を組合せて言語表現をつくり、それぞれの国語によって違う構造を用いて発話を行なう行為は、限定された言語情報を構成し伝達する文化的作業をふくんでおり、この意味で「言葉を使う」ことが「理性的である」と一つになる。

b 言語記号の構成のための知的活動は理性的であるが、それは科学的記述のためにこそ必要な認識的な働きであり、宗教的信仰の内容を示すために使うときには「言葉を使う」ことが「理性的である」ということと一つにはならない。

c 言語記号を組合せて色々な言語表現をつくり、それらの表現を発話状況に応じて使用する、という知的操作は、理性的とよばれるにふさわしい働きであり、この意味で「言葉を使う」ことが「理性的である」ということと一つになる。

d 言語記号を組合せて文を、そして多くの文を組合せて物語りや理論をつくることは、科学的記述を行なうための演繹的・推論的な認識をふくむ理性的行為であり、この意味で「言葉を使う」ことが「理性的である」ということと一つになる。

問十 本文で著者が述べている考えと相容れない主張を次の中から二つ選べ。

a 宗教や詩やロマンティックな文学を人間がもつということは、「ロゴスをもつ動物」としての人間観と矛盾しない。

b 現代の科学技術の開発は、人間は科学や文化をもっているが故に他の生物とは異なるということを示している。

c ロゴスを理性という曖昧な表現にほんやくすることによって、近代西欧文化に反する生活への差別が生まれた。

d 言語に関する科学的研究により、「言葉をもつ」ことがどういうメカニズムによるのかが明らかになってきた。

e 人間を他の動物と区別するためには、人間は科学的記述に使うための言葉をもっているという点に注目すればよい。

二

次の文章は『風につれなき』の一節である。今上帝の藤壺女御と弘徽殿中宮はともに懐妊していた。七月にまず、藤壺女御が
出産する。しかし生まれたのは姫宮であった。期待していた男皇子ではなかったため、皆が落胆する中、弘徽殿中宮の出産が
近づく。これを読んで後の問に答えよ。

「いま一方は本意なきを、今は一筋に念じ思ふ」など、大宮よりものたまはするに、大臣はいとわびしう御胸つぶれて、この
御事も八月なれば、心あわたたしくなり給ひて、それより前に春日の御社へ参り給はんと思し立つ。かしこき道々の人に物
を問はせ給ふにも、「皇子出でおはしますべし」とのみ占なひ申せば、さりともと思さるるもかつはをこがましきに、神の御
験あらたならんのみこそと思して、七月二十日あまりのほどに、春日に大臣参り給ひて、御神楽など常の事に過ぎて、神の
御心も驚くばかりし尽くさせ給ひて、一つ心に念じ入りてさぶらひ給ふ。暁がた、有明の月くまなく、山風涼しく吹き払ひた
るに、夢ともなう現ともなく、いと気高きさまなる人の声にてほのかに、

「あきらけく照らさむこの世後の世も光を見する露やきこえなむ」

嘆くべきならず。これみな前の世の契りなる上に、人の思ひも添ふなるべし」と言ふ。誰そと見まはし給へど、人影もせず。
心得る方もなう、いかにともたどられ給はねど、夜深く出で給ひぬ。道すがらも、ゆゆしき例思し出でられて心騒ぎしなが
ら、いつしか参りて見奉り給へば、心苦しき御様に涙こぼれ給ひて、重ねて御祈りどもはじめ、この御社にもたちかへり御馬
など奉り給ふ。

いかにいかにと静心なう思しまどふに、八月三十日、いたうも悩み給はで、光を放つやうなる男皇子ぞ平らかに生まれさせ
給へる。大臣の御心地おき所なう嬉しきにも、よろこびの涙さへ止められ給はず。内裏の御使、口惜しかりし、たとしへな
く、まづ我先にと参り、行きちがふ馬、車の音、ものも聞こえず鳴り合ひたるを、聞き給ふ向かへの大殿の女御、母上の御心
地やすからんやは。左の大臣も心の内なますずろはしく思さるれど、渡り給ひて、よろづの事もろともに行ひ仕うまつり給
ふ。

〔注〕 ○いま一方…藤壺女御。 ○大宮…帝の母。 ○大臣…関白太政大臣。弘徽殿中宮の父。 ○ゆゆしき例…中宮の母が

産後に亡くなつたことを指す。 ○向かへの大殿の女御、母上…藤壺女御とその母。藤壺女御の実家の左大臣邸は、関白太政大臣邸と向かい合っている。

問一 二重傍線部ア、エのうち、敬意の対象が他の三つと異なるものを次の中から一つ選べ。

- a ア
- b イ
- c ウ
- d エ

問二 傍線部1「春日の御社へ参り給はん」とあるが、なぜか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 大宮の藤壺女御に対する怒りが弘徽殿中宮に降りかからないよう祈るため。
- b 神の靈験によつて弘徽殿中宮の男皇子出産が叶うよう、祈願するため。
- c 弘徽殿中宮の出産を控え、命を落とすことなく無事出産できるように祈るため。
- d 弘徽殿中宮が皆の期待にこたえて男皇子を産むことができるかどうか占うため。

問三 傍線部2「かしこき道々の人」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 物事の道理をよく分かっている人たち
- b 身分が高く恐れ多い人たち
- c 占いの方面で優れた人たち
- d 諸道に秀で徳の高い人たち

問四 傍線部3「さりともと思さるるもかつはをこがましき」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 男皇子が生まれると信じ込んでしまうのも、一方ではおろかなことだということ。
- b 春日大社にお参りに行くほどではないと思われるのも、一方では罰当たりなことだということ。
- c 娘の弘徽殿中宮の運の強さを信じてしまうというのも、一方では親バカなことだということ。
- d 春日大社での占いの結果を信じられないというのも、一方では愚かしいことだということ。

問五 傍線部4「あきらけく照らさむこの世後の世も光を見する露やきえなむ」について、次の間に答えよ。

(1) 和歌の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a はつきりと照らし出すでしょう。この世も後の世も照らし続けるその光は、露のように消えはしまい。
- b 明らかに照らすでしょう。しかし、この世も後の世も照らすその光は露のように消えてしまうのでしょうか。
- c この世も後の世も、明るく照らすでしょう。その光を見せる露の方は消えるのでしょうか。
- d この世を曇りなく照らすでしょう。そして後の世に光を見せてくれる露は消えるのでしょうか。

(2) この和歌が意味するところはなにか。その説明としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 男皇子が誕生し、この世も後世も安泰だが、その皇子を産んだ弘徽殿中宮は亡くなってしまふという神のお告げ。
- b 男皇子が誕生し、この世も後世も安泰で、その皇子を産んだ弘徽殿中宮も榮華を極めるといふ神のお告げ。
- c 男皇子が誕生し、この世は安泰だが、後にその皇子は亡くなつてしまふといふ神のお告げ。
- d 男皇子が誕生し、この世は安泰で、その名声は後世にまで語り伝えられるといふ神のお告げ。

問六 傍線部5「嘆くべきならず」とあるが、なぜか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a これも前代の帝の時代に定まっていた神との約束で、今の時代の人の願いが具現化したものだから。
- b これは前代の帝の時代に取り決められた神との約束だが、今の時代の人の願いによって変えられるものであるから。
- c これは前世からの宿命ではあったとしても、この世の人の願いによって変えられるものであるから。
- d これも前世からの宿命であり、この世の人の願いも加わったものでもあるから。

問七 傍線部6「いつしか」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a いつのまにか
- b 早々に
- c いつであったか
- d いったいいつ

問八 傍線部7「生まれさせ給へる」を品詞分解した時、各語の品詞が正しく説明されているものを次の中から一つ選べ。

- a 動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞＋補助動詞＋補助動詞
- b 動詞＋助動詞＋補助動詞＋助動詞
- c 動詞＋助動詞＋動詞＋補助動詞
- d 動詞＋助動詞＋補助動詞

問九 次の作品から物語のジャンルに分類される作品を一つ選べ。

- a 『長秋詠藻』
- b 『袋草紙』
- c 『とはすがたり』
- d 『夜の寝覚』

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、本文中に見える「旦」「末」「淨」「丑」「生」は、いずれも中国戯曲における役柄の呼び名である。また、設問の関係上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

余奇文楼西南一方、恒揭榜聯云、「日月灯、江海油、風雷鼓板、天地間一大戲場。堯舜旦、湯武末、莽操淨丑。古今來許多脚色」。語係乎康熙帝。每客來飲於樓、必質其義。乃告之曰、「生、熟之反也。凡梨園之長、非慣熟人情世故、兼妙舞技者、不能。故反語曰「生旦、晨旦也。夜欲明、未明、曉色糳糊、猶男而女装、剛而柔聲、殆使人不弁其真仮。故曰旦。或曰、「婦女宜于深夜。故亦反之」。顛倒蹶跌、專事戲謔者、謂之淨。或為之讐、或為之賊、輒為三人所殺戮者、謂之丑。案『正韻』丑音醜、義亦通。然則淨与丑、皆婉曲其態貌、以排列生与旦而已矣。嗚呼莽耶操耶、堯舜也、

湯武也、雖^{ドモ}聖智暴惡件件不同^ト、自^リ今觀^{レバ}之、何^ソ異^{ナラン}于一^ヤ齣^{セキ}戲^ニ。是^レ帝^ノ所以^リ借^{ラス}為^ス戲^ト謔^ト歟。

(信夫怨軒「生旦淨丑説」)

〈注〉○奇文楼—筆者の書齋の名。

○榜聯—対句を二つに分けて書いた板を、柱などに掛けたもの。

○湯武—殷の湯王と周の武王。 ○莽操—王莽と曹操。

○正韻—『洪武正韻』。漢字を韻によつて分類配列した書。

○齣—戯曲の一場。

問—傍線部「許多」の意味としてもつとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a たくさんの
- b いくつかの
- c 認められた
- d これほどの

問一 傍線部2「生」と同じ意味で「生」の字が用いられている語はどれか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 生氣
- b 生活
- c 生硬
- d 生育

問三 傍線部3「非慣熟人情世故、兼妙舞技者」に返り点を施した場合、もっとも適切なものはどれか。次の中から一つ選べ。

- a 非_レ慣_レ熟_レ人_レ情_レ世_レ故_レ、兼_レ妙_レ舞_レ技_レ者
- b 非_レ慣_レ熟_レ人_レ情_レ世_レ故_レ、兼_レ妙_レ舞_レ技_レ者
- c 非_レ慣_レ熟_レ人_レ情_レ世_レ故_レ、兼_レ妙_レ舞_レ技_レ者
- d 非_レ慣_レ熟_レ人_レ情_レ世_レ故_レ、兼_レ妙_レ舞_レ技_レ者

問四 「旦」とは女形のことであるが、その説明に傍線部4「晨旦」という語が用いられているのはどうしてか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 夜明け頃のやわらかい空の色のように、女性の優しい姿を演じるから。
- b 夜明け頃のぼんやりした空の様子のように、男なのか、女なのか、判然としないから。
- c 夜明け頃のうっすら明るい空のように、淡い情緒を巧みに表現するから。
- d 夜明け頃のはっきりしない空模様のように、性格がごろごろ変わり一定しないから。

問五 「浄」、「丑」という二つの役柄について本文が述べていることと一致しないものはどれか。次の中から一つ選べ。

a 「浄」はすべつたり転んだり、滑稽な振る舞いで客を笑わせる役である。

b 「丑」は「醜」に通じ、悪役であり、決まって劇中で殺されることになる。

c 「浄」も「丑」も、その役柄が客にはつきりと分からぬよう演じるべきである。

d 「浄」も「丑」も、あくまで引き立て役であつて、出過ぎた芝居は好ましくない。

問六 この文章には続きがあり、そこで筆者は、儒者のあり方を戯曲の役柄になぞらえて論じている。次に示す甲〜丙のよう
なあり方を、筆者はそれぞれの役柄に比していると考えられるか。a〜dの中から一つずつ選べ。

甲 「高」大門戸、修「辺幅」、設「城府」、以「欺」愚人「者」

乙 「暗」夜乞「憐」、白日「驕」人、外君子而内小人者

丙 「浮」文空詩、諧「諛」諛諛、以「売」其業「者」

a 生

b 且

c 浄

d 丑

問七 本文中に見える「康熙帝」は清の第四代皇帝である。次の中から清代に成立した作品ではないものを一つ選べ。

a 西遊記

b 聊齋志異

c 儒林外史

d 紅樓夢

